

農村地域の特性に配慮した地域情報化戦略に関する基礎的研究

—「オフトーク」の歴史的意義と、綾部市・水源の里でのメディア移行に着目して—

柳瀬 顕

キーワード： オフトーク、過疎地域、限界集落、地域情報化、テキスト計量分析、メディア、水源の里

背景

本論文では、農村地域の特性に配慮した地域情報化戦略への提言に向けた基礎的研究として、農村地域で長く使われてきた「オフトーク」の全国での活用実態調査と、綾部市水源の里(限界集落)での事例分析を行い、農村地域でコミュニティの維持が困難な条件不利地域における地域情報化戦略への提言につなげる。

方法

①マクロ的分析として、1988年から2015年までの27年間943件の新聞記事(全国紙・地方紙・専門誌)についてテキスト計量分析を行う(第2章)。

②事例調査として、綾部市・水源の里でのアンケート調査とヒアリング・参与観察を行い、過疎地域のメディア環境とオフトークの位置づけ、メディア移行の課題を明らかにする(第3章)。

結果

①マクロ的分析の結果として、オフトークの活用の内容や変遷(図1)を包括的に明らかにし、特に、「農村地域と都市部では、異なった形の地域情報化戦略」が必要であることを明示した。また、分析から判明したオフトークの利用地域の分布を、ArcGISを用いて可視化(図2)し、オフトーク利用されていた農村地域のうち、約半数が過疎地域であり、農村地域のなかでも特に情報化の難しい過疎地域で利用されてきたメディアであることを明らかにした。

②事例調査の結果として、オフトークが「お悔やみ」「災害情報」「地域に関わる行政情報」といった即時性が要求される、地域コミュニティに関する重要な情報を共有する役割を担ってきたこと、コミュニティの実態として、集落内だけでなく、集落外でのコミュニケーションや、やりとりによって集落機能や生活機能が支えられていることがわかった。これまで地域情報化は、集落や地区といった生活圏域での住民による情報共有に主眼が置かれていたが、今後はこれらの拡大コミュニティ的な領域も含めた地域情報化を考えていくことも有用であると考えられる。

総合考察

以上の結果を踏まえ、地域の維持存続が大きな課題となっている農村地域(特に過疎地域)における今後の地域情報化戦略として、「提案①地域外に住む、親せきや助けてくれる人を含めた地域情報化」とそれを実現するための、「提案②複数メディアによる地域情報化」の提案をおこなった。

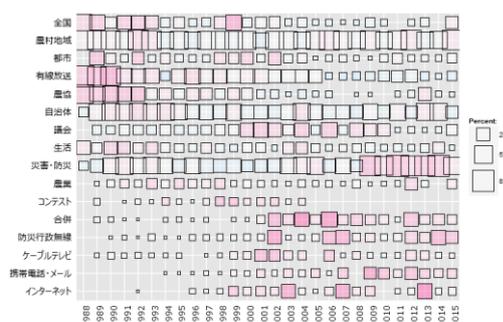


図1：マクロ分析・コード記事数の経年変化

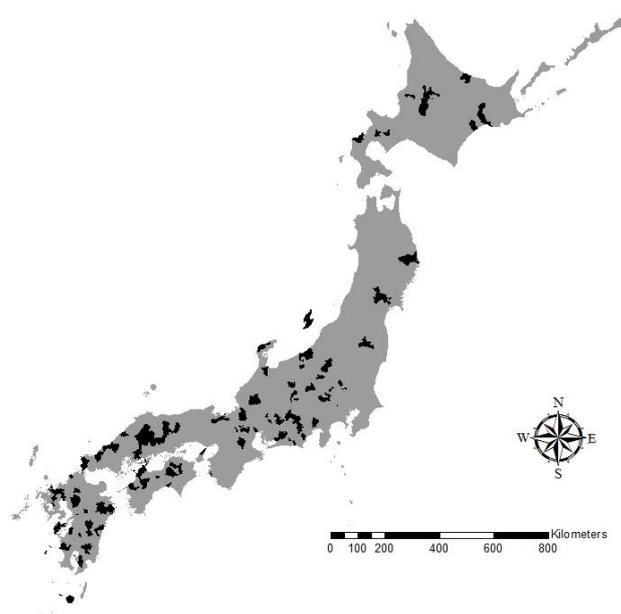


図2：オフトークを利用していた地域マップ